

令和8年台風6号に伴う那賀川堤防 漏水箇所現地調査報告

調査日時:2026年6月9日,10日

調査者名:岡村未対(早稲田大学) 陣内尚子(愛媛大学)

松山菜摘(愛媛大学修士2年) 早川大智(早稲田大学修士1年)

木下理恵(愛媛大学学部4年) 百目鬼千鶴(早稲田大学学部4年)

令和8年台風6号の概要¹⁾

- ・ 那賀川の基準地点である古庄基準観測所の上流域において、6月1日13時から3日12時までの期間で**流域平均総雨量約381mm**、最大時間雨量は**約45mm**を記録。
- ・ 6月3日3時10分に避難判断水位(上流)の5.80mを超過し、6月3日4時00分に**6.06m**の最高水位を観測した。
- ・ 那賀川において、令和元年8月台風第10号以来、**約7年ぶり**に氾濫注意水位(5.00m)を超過する洪水を記録した。



那賀川

調査箇所

那賀川河口から13.4k付近の楠根、4.6k付近の大京原の2箇所を調査した。



調査箇所²⁾

洪水時の水位の測定

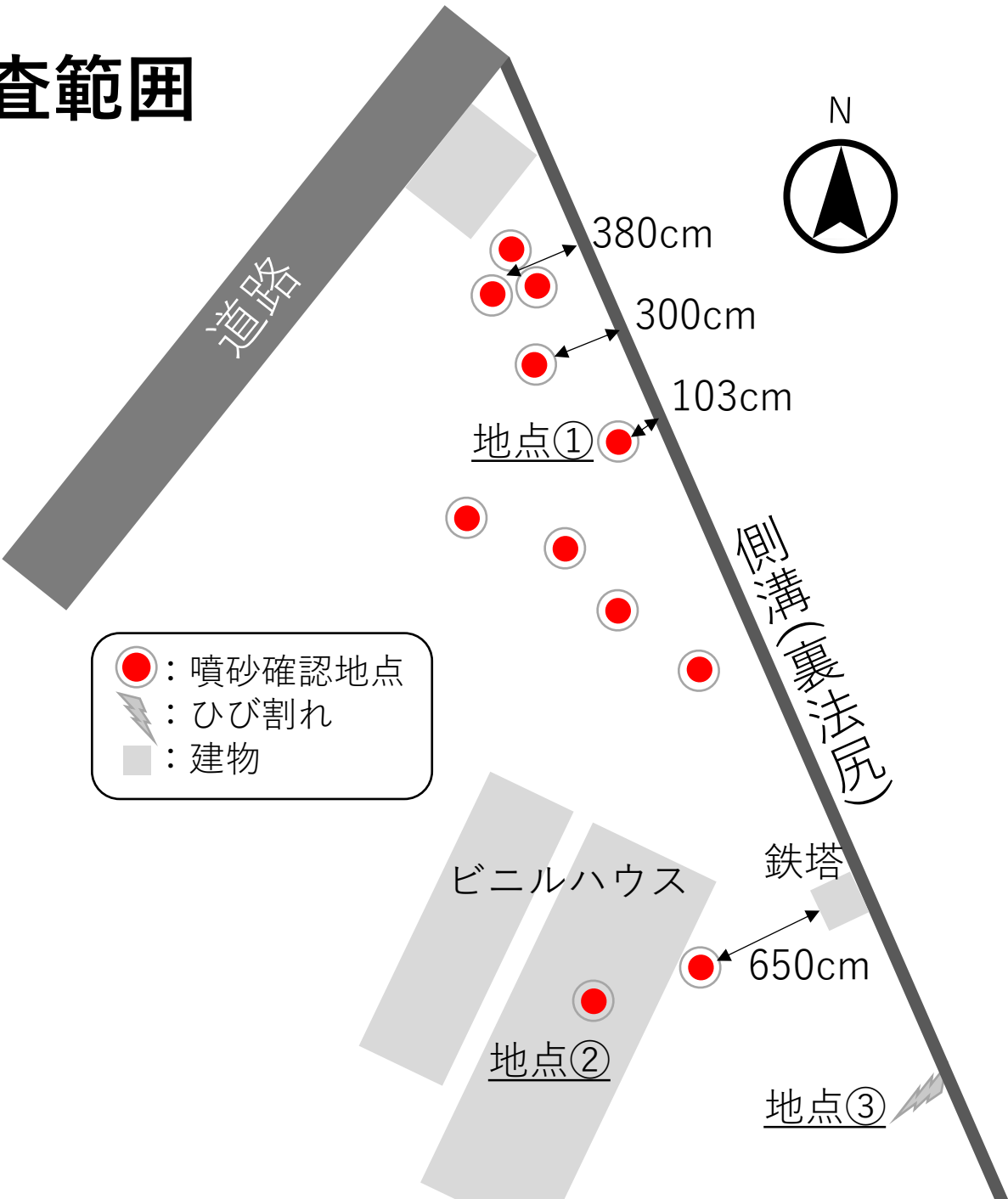
堤内外水位差 H の測定方法…痕跡調査

川表法面や樹木についたゴミ・木の枝などの位置から洪水時の水位を測定する方法



痕跡調査の一例

調査範囲



楠根における変状確認位置

地点①

- ・農地内で噴砂を複数確認(粒度分布は次ページ)

地点②

- ・ビニルハウス内外で噴砂を複数確認
(粒度分布は次ページ)

地点③

- ・ブロックの損傷を
複数確認
→沈下の可能性？



ブロック損傷 楠根における噴砂(損傷)確認地点

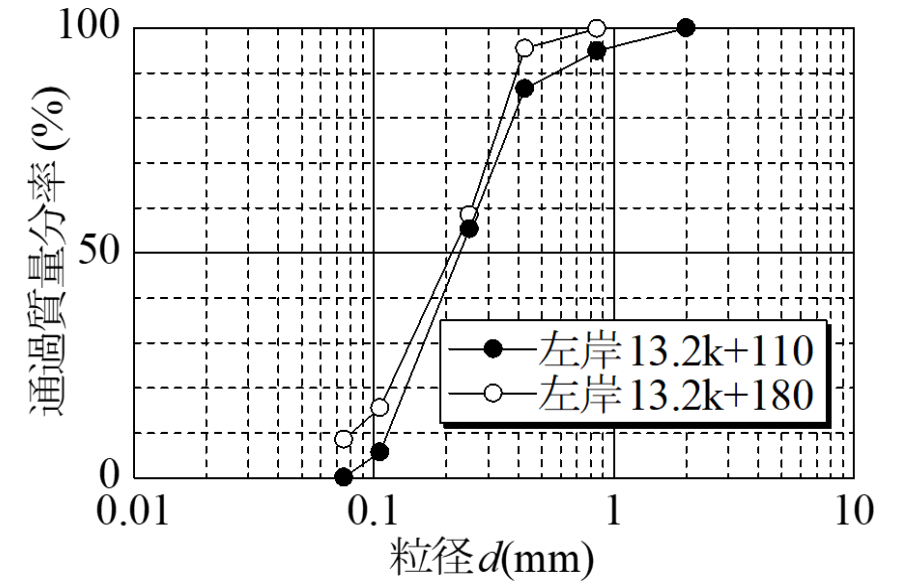
楠根における被災状況



地点①(左岸13.2k+110)
噴砂口の大きさ $3\text{cm} \times 3\text{cm} \times 13\text{cm}$
噴砂範囲 $40\text{cm} \times 50\text{cm} \times 9\text{cm}$
裏法尻からの距離 103cm



地点②
(左岸13.2k+180)
噴砂口の大きさ
 $100\text{cm} \times 60\text{cm} \times 20\text{cm}$



各噴砂の粒径加積曲線

粒径加積曲線からどちらも**砂**と判断できる。

楠根における被災状況

左岸13.4k(楠根下流)の噴砂地点

堤内外水位差 $H=2.3\text{m}$ 浸透路長 $L=56\text{m}$

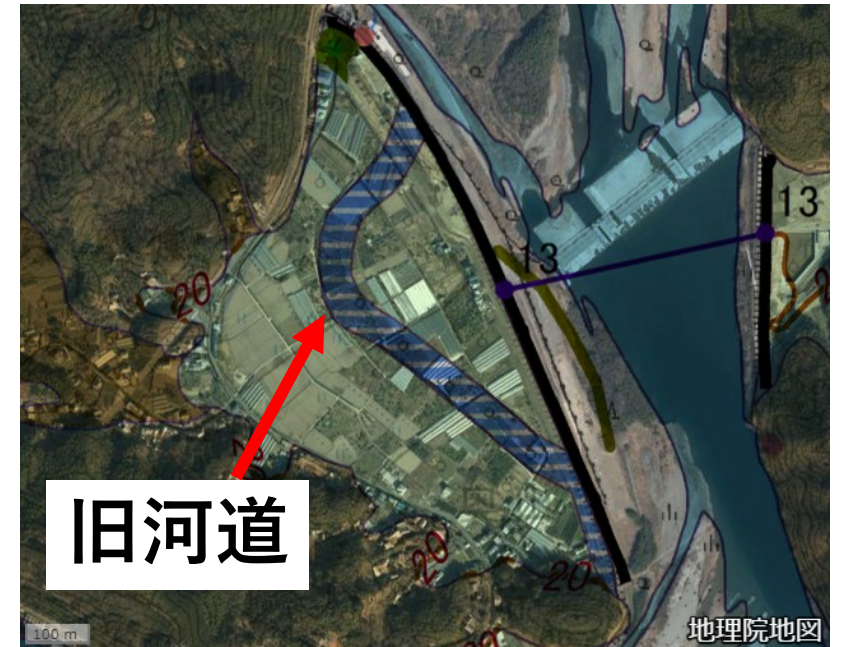
→動水勾配 $H/L=0.041$

堤防の基礎地盤は表層に薄い砂層、その下は厚い礫層→**基礎地盤の砂**が噴砂として出現

水はどこを流れていたのか？

- ・河床から礫層に入った水が、堤内地で上向きに噴出。(旧河道の存在)

→浸透路長さは56mではなく、もっと長い可能性が高い



楠根の治水地形分類図²⁾

大京原における被災状況

左岸4.6k

堤内外水位差 $H = 1.79\text{m}$ 浸透路長 $L = 65.7\text{m}$

→動水勾配 $H/L = 0.027$

これまで繰り返し噴砂・漏水があったが、今回は無かった。

(すべり破壊らしき凹みを確認。凹みの下に膨らみも確認された。)

ボーリング調査の結果、天端から堤内地側にかけて**砂層**が分布していることが判明。
→過去の漏水・噴砂は、河床部分の**礫層**から水が通過し、**砂層**から発生したと判明。



大京原の堤防の沈下
(14cmほど沈下)

参考文献

- 1)那賀川河川事務所(2026) 令和8年台風第6号の概要 【那賀川・桑野川】
<https://www.skr.mlit.go.jp/nakagawa/notice/pdf/r8/r80609taifuurokugou.pdf>
- 2)国土交通省国土地理院 治水地形分類図について
https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/fc_refer.html